

ヒナモロコ里親会
Hinamoroko Foster-parents Club (略称 HFC)

平成 19(2007)年度活動報告書

(平成 19 年 1 月 1 日 ~ 平成 19 年 12 月 30 日)



平成 19(2007)年 11 月 16 日、「耳納の市」水槽のヒナモロコ
於 ；耳納の市展示場
撮影；村上 政利

《 目 次 》

平成 19(2007)年度活動記録・活動実績、実績・成果報告書

資料 1

巻頭言「橋本哲男先生の残したもの」・・・・・・・・・・・・・・・・ 村上 政利

【資料】ヒナモロコ通信

| | |
|--------------------------|--------|
| ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ | 第 58 号 |
| | 第 59 号 |
| | 第 60 号 |
| | 第 61 号 |
| | 第 62 号 |
| | 第 63 号 |
| | 第 64 号 |
| | 第 65 号 |
| | 第 66 号 |
| | 第 67 号 |
| | 第 68 号 |

ヒナモロコのこと
ヒナモロコのプロフィール
ヒナモロコ里親会の歩み
新規約 と 新体制人事
会員名簿(順不同)

参考資料

| | | |
|---------------------|-------|-------|
| 「橋本先生の考え」 | 村上 政利 | 別紙・ 1 |
| 里親制度と水路の保全でヒナモロコを救う | 大石 敏 | 別紙・ 2 |
| 会計報告書 | | 別紙・ 3 |



於；久留米市田主丸町
事務局スナップ

橋本哲男先生の残したもの

本年度はヒナモロコ里親会にとっても大きな転機となる年度になりました。ヒナモロコ里親会の中心的存在であり、活動の中核を担っていただいていた橋本先生が昨年 8 月 25 日に逝去され、ヒナモロコ里親会の活動が、例えて言えば一時的ながら「舵を無くした舟」のようになってしまったのです。

橋本先生一人に頼り切った里親会のあり方にも問題があったのでしょうし、少数の会員の判断と決定で里親会の活動が押し進められていたのも問題でした。里親会の成立の経緯から、なるべくしてなった運営の仕方と組織の構成に大きな転換をもたらす事件が、まさに橋本先生の逝去であったと思います。

かくして、本年 4 月から、新規約に基づく「新人事の新体制」が確立し、活動がスタートすることになりました。どうぞ宜しく、お願い申し上げます。

さて、橋本先生は平成 4 年に耳納塾が(絶滅したのではないかと言われた)ヒナモロコの調査を開始する以前から、淡水魚に関わってこられましたので、ヒナモロコとの関係は足かけ 16 年以上が経過していることとなります。

そうして、文字通り「ヒナモロコの保護活動」の実践と理論の中心でした。その理論と実践の集大成とも言うべきものが、「ほ場整備事業に関わる 〇 水路とその周辺の水田整備」に対する提案・意見書です。その内容は、〇 水路のおかれた厳しい現状認識を踏まえて、その厳しい環境の中で生息するヒナモロコに対する愛情にあふれたものでした。

しかしながら、今となってはその提案・意見書の中で示された内容を、100 % 実現するというわけには行きませんが、その精神を受け継ぎ、提案された内容を 3 割でも、あるいは 1 割でも実現できるようにすることが、ヒナモロコの保護活動に命を捧げられた先生に対する会員各位の誠意ではないでしょうか。

その為にはと思い、当方の責任で「橋本先生の考え」という小冊子を製作しました。これは、ヒナモロコの保護、特に 〇 水路に関わるヒナモロコの保護についての提案・意見書が、どの様な内容であったかを明らかにすることによって、今後の里親会の活動の中にどの様に、又はどの程度に活かしていけるのかを知るためです。

「橋本先生の考え」に対しては、様々な解釈があるでしょうが、当方の解釈は、水路の学術的?価値の重要性を認識しつつも、常に最優先は、ヒナモロコに対する愛情にあふれた「これは、これこれはヒナモロコにとって良いことか、幸せなことなのか」という観点ではなかったか、ということです。安っぽいセンチメンタリズム、ロマンティストとバカにされても、このような観点を無くしてしまうと、生身のヒナモロコを「田主丸産のヒナモロコ」として「物」扱いしてしまうのではないかと思うのです。

ヒナモロコは「生き物」です。その川で、その水路で、その池で幸せか!?と、自分のこととして、問いかけて、ヒナモロコの立場になって考えて行きたいと私は思います。その様な観点を、どうぞ宜しく「橋本先生の考え」の小冊子をお読みいただければ、幸いです。

村上 政利

ヒナモロコ通信 第58号

平成 19年 2月 20日

平成 19(2007)年度の活動

2月の予定 第43回 定例会合

2月25日(日曜) 午前 10:00~11:00

於；田主丸中学校

「ヒナモロコ親魚の交換」を予定していましたが、午後の1.00から、「日本魚類学会」の要請(裏面をご参照ください)に対する意見交換を緊急開催することになりました。

そのため、参加される会員は、ヒナモロコをそのままバケツに入れておくわけにも行きませんので、3月の次回に延期します。

よって、2月のこの日にしか出席できない会員と、午後からの会合に参加できない会員のみの「ヒナモロコ親魚の交換」とします。

突然で、会員各位にはご迷惑をお掛けしますが、どうぞ宜しくご了承下さい。

ヒナモロコ通信 第59号

平成 19年 3月 20日

平成 19(2007)年度の活動

3月の予定 第45回 定例会合(通算開催)

3月25日(日曜) 午前 10:00~12:00

「ヒナモロコ親魚の交換」会員各位の親魚を持ち寄って交換します

「水草とり」産卵の為の準備作業をします。

第44回 臨時会合(通算開催) 2月25日(日曜) 午後 1:00~

ヒナモロコの生息している「O水路」について、各方面の意見・見解を出して貰い、問題点を見つけて、解決する方向を捜す会合でした。

新聞報道にでた「日本魚類学会」からも参加していただき、その見解・意見を詳しく述べていただきました。



それぞれの立場から、いろいろな意見が出ましたが、その要旨を橋本先生にまとめていただいていますので、次の集会で発表します。

ヒナモロコ通信 第60号

平成 19年 4月 16日

平成 19(2007)年度の活動

4月の予定 第46回 定例会合(通算開催)

4月22日(日曜) 午前 10:00~12:00

於; 田主丸中学校

産卵報告

午後から 魚種調査「ヒナモロコの生息地調査」

サデ網など用意して、本格的なデータ収集をおこないます。

有志の参加のみ。

第45回会合(通算開催)

3月25日(日曜)

午後 10:00~



会員各位の持ち込んでいただいたヒナモロコを、あらかじめ用意したバケツに4~5尾ずつ入れて分けていき、その後各自が適当に選んだバケツの中のヒナモロコを持ち帰ります。



午後から 魚種調査「ヒナモロコの生息地調査」

サデ網など用意して、本格的なデータ収集をおこないました。

ヒナモロコの産卵が確認されました。(4/14の報告から)



二田の堤

新会員のご紹介

| | | | |
|----|-------|----|------|
| 三木 | 幸雄 | さん | 小郡市 |
| 高橋 | 布(ノブ) | さん | 福津市 |
| 長野 | 卓司 | さん | 筑紫野市 |

ヒナモロコ通信 第61号

平成 19年 5月 20日

平成 19(2007)年度の活動

5月の予定 第47回 定例会合(通算開催)
5月27日(日曜) 午前 10:00 ~ 12:00
於; 田主丸中学校

産卵報告

午後から 魚種調査「ヒナモロコの生息地調査」

サデ網など用意して、本格的なデータ収集をおこないます。
有志の参加のみ。

「ヒナモロコ里親会」の活動の内容について。

「ヒナモロコ里親会」はその第一の目的が、ヒナモロコの増殖であります。しかしながら最近の環境変化により、以前にまして、ヒナモロコの生息環境の保護にも積極的な関与が必要になって参りました。その原因は、ヒナモロコの生息する源水路が農地整理の工事に絡んで、一部の改修がやむを得ない状況になっていることと、このような状況に対する日本魚類学会の申し立てによります。

そこで「ヒナモロコ里親会」は積極的にこのような状況に参加して、有利な形での決着を計ることにしました。これは、ヒナモロコ里親会でもご報告した通りです。

今回具体的な政策として、二田の堤の「土砂上げ」と「平橋の掛架」、7月の草刈りを実現させたいと思っています。

【計画案】

草ぼうぼうの現状を改善し、堤の土砂を撤去して、(埋め立てによる公園化ではなく)堤の水と水辺の動植物と昆虫が共生する「公園化」を実現する。堤は従来から、動植物、昆虫の多様性が確保されているので、その多様性の環境こそが、ヒナモロコにも最適の環境となる。

いろいろな植栽を実施する。さらに堤の外周は洪水防止のためにとぎれているので、ここに簡単な平橋を掛け、一周して、散策できるようにする。

又 周囲 300 メーター以内に、小学校と保育園があるので、総合学習などに利用できる自然環境をも実現する。



イトトンボ



クサカメ

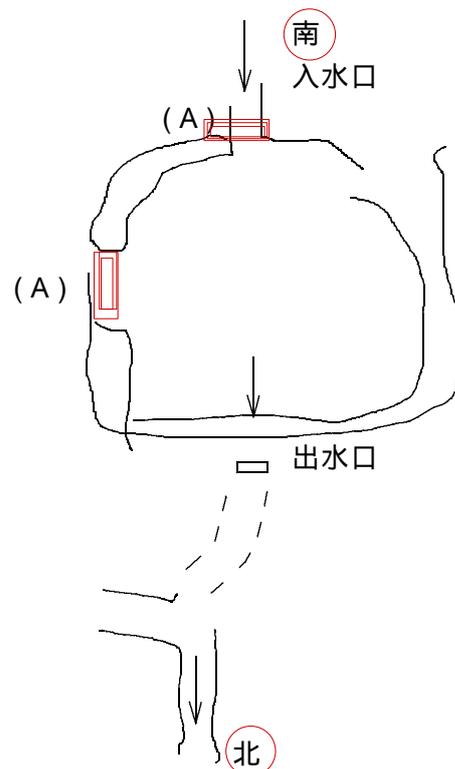


バンのヒナ

例年、住み着いたバンの夫婦は、4～5匹のヒナを孵すが、1カ月後くらいには、2匹くらいに減ってしまう。間違いなく、イタチに襲われて、食べられていると思う。

二田の堤の概略図と架橋計画

(A) の部分の 2 カ所に簡単な平橋を掛ける



ヒナモロコ通信 第62号

平成 19年 6月 29日

平成 19(2007)年度の活動

7月の予定 第48回 定例会合(通算開催)

7月29日(日曜)

午前 10:00 ~ 12:00

於 ; 旧田主丸中央公民館前、現総合支社裏

恒例 「水辺の教室」

「ヒナモロコ里親会」の活動の内容について。

「ヒナモロコ里親会」はその第一の目的が、ヒナモロコの増殖であります。しかしながら最近の環境変化により、以前にまして、ヒナモロコの生息環境の保護にも積極的な関与が必要になって参りました。その原因は、ヒナモロコの生息する源水路が農地整理の工事に絡んで、一部の改修がやむを得ない状況になっていることと、このような状況に対する日本魚類学会の異議申し立てによります。

そこで「ヒナモロコ里親会」は積極的にこのような状況に参加して、話し合いで問題の解決を計

ることにしました。これは、ヒナモロコ里親会でもご報告した通りです。

又 今回具体的な政策として、二田の堤の「草刈り」を実現させたいと思っています。

「ヒナモロコ里親会」の活動の予定表。

(社)農村環境整備センターからの具体的支援の回答はきていませんが、来るものとして、下記行事予定を、実行しますので、どうぞ宜しく[会員各位の積極的ご参加を](#)、お願い申し上げます。

7月2日(月曜日) 竹野小学校の生徒さん達と「自然観察会」午後 1.30 から
竹野小学校に集合して、D水路にて

7月8日(日曜日) 「ヒナモロコの保護に関する協議会」設立集会 午前 10.00 から

7月14日(土曜日) 二田の堤の草刈り 午前 7.00 から有志の参加を希望します。
集合は、二田の堤。

7月21、22日(土、日曜日) 第10回「川の日」ワークショップ
会場:(21日)国立オリンピック記念青少年総合センター
(22日)明治神宮 参集殿 裏に詳細。

7月29日(日曜日) 上記 「水辺の教室」。

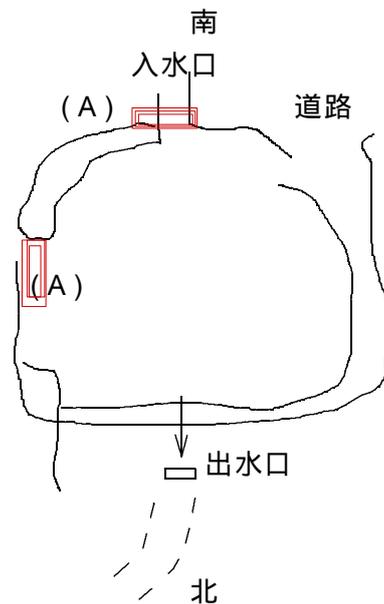
二田の堤の概略図と架橋計画(未定)

(A) の部分の 2 カ所に
簡単な平橋を掛ける

草刈りは、歩いて一周できるように
したい

草刈り道具を持参してください。

午前 7.00 から有志の参加を希望



第 10 回「川の日」ワークショップ

2007 年 7 月 21 日(土)・22 日(日)!! 大石実行委員長が東京へ行きます。

20 日(金)は前夜祭として、

「川の恵と食の文化ワークショップ」を開催します!

シンポジウムの参加には事前申込みが必要です。

7/20(金) 18:00 ~ 20:30 国立オリンピック記念青少年総合センター レセプションホール

日時: 2007 年 7 月 21 日(土) 10:00 開会 ~ 22 日(日) 16:00 閉会

会場: (21 日) 国立オリンピック記念青少年総合センター (22 日) 明治神宮 参集殿

ヒナモロコ通信 第 63 号

平成 19 年 8 月 20 日

平成 19(2007)年度の活動

8 月の予定 第 49 回 定例会合(通算開催)

8 月 26 日(日曜)

午前 10:00 ~ 12:00

於; 田主丸中学校

午後から

魚種調査「ヒナモロコの生息地調査」

サデ網など用意して、本格的なデータ収集をおこないます。

有志の参加のみ。

「ヒナモロコ親会」の活動について。

(社)農村環境整備センターからの具体的支援の回答が来ましたので、更に具体的な内容を詰めまして、発表いたしますので、どうぞ宜しく**会員各位の積極的ご参加を**、お願い申し上げます。

7月11日(水曜日) 竹野小学校の生徒さん達と「自然観察会」午後1.30から
竹野小学校に集合して、D水路にて



7月29日(日曜日) 「水辺の教室」。 旧役場裏の巨瀬川



子供向けの行事なのに、大人が夢中になる「不思議な」教室に、今年もなりました。



「水辺の教室」続き。

川の流りに逆らって、大きな魚がスーと上流に向かって足下を通り過ぎる・・・

タイミングを狙って、再度チャレンジ・・・



女性の参加です。



7月14日(土曜日) 二田の堤の草刈り 午前 7.00 から 有志の参加。



モーター付きの草刈り機を
新規に 2 台購入して、合計
4 台で行った。



9月の予定 第50回 定例会合

9月30日(日曜)

午前 10:00 ~ 12:00

於；田主丸中学校

第一回目の放流会

午後から

魚種調査「ヒナモロコの生息地調査」

サデ網など用意して、本格的なデータ収集をおこないます。

有志の参加のみ。

訃報

8 月 25 日(土)「心不全」の為、橋本 哲男 が永眠しました。
葬儀は、8 月 27 日 午後 1.00 ~ 於 ; (久留米)草苑 久留米市野中町 865
喪主 ; 橋本 和子(妻女)のもとで行われました。

紙面をお借りしまして、あらためて心よりご冥福をお祈りします。

香典として、「ヒナモロコ里親会実行委員長大石敏」で、¥10,000- を出させていただきます
た。

特別臨時会合

平成 19(2007)年度の活動

9 月の予定 第 50 回(通算開催)臨時会合

9 月 2 日(日曜)

午前 10:00 ~ 12:00

於 ; 田主丸中学校

内容 下記課題(第 1 ~ 4)の確認
橋本邸を訪問 ・ ・ 部材の整理と処分
お許し頂ければ、焼香。

橋本先生のご自宅には、庭の一部に屋根を張り、ヒナモロコ専用の水槽の数は約 32 器、その他合計で 50 槽は有りました。又付属部品は数え切れないほどあります。奥様は、この水槽の管理には、ほとんど関与されていなかったようですので、魚だけでなく、関連部材・部品の処分を合わせて強くご要望されています。

先生専用の 8 畳ほどの書斎には、CD-ROM、写真その他、様々な魚・鳥・トンボの資料が山積みされており、実兄様より、利用を許可されました。

会員各位には、電話で連絡を取らせていただきましたが、土曜日ということもあって、ほとんど繋がりませんでした。

とりあえず、連絡が出来ました 15 名の方々でもって、翌 26 日に第 49 回会合を開き、全員で橋本邸を訪問しました。

「魚を一匹でも死なせたら、橋本が悲しみます」と先生の奥様と、お姉さまの強い御希望があって、ヒナモロコを初めとする 3000 余尾の魚を全員で分担して、引き取りました。

又魚は引き取りましたが、飼育設備・部品(ポンプなど)は、放置したままです。初七日が過ぎて至急に処理をしないと先生が大事にされていた物が粗大ゴミとなってしまいます。これらの物を会員が引き取って、引き続き大切に利用していくことは、先生の希望に叶うことであると確信します。

さて、橋本先生は、「ヒナモロコ里親会」の実働部隊の中心であり、思想上の中心でした。その中心を失ったことは、将来の「ヒナモロコ里親会」の再編・再生は必須と考えています。しかし当面、各界からのご支援がありますので、橋本先生のご意志を本年度は、出来るだけ実現できるように努力しなければならないと思います。

その第一は、B 水路へのヒナモロコの放流です。その為に先生は、3000 尾のヒナモロコを増殖して、来年 3 月の放流に向けて、計画をされていました。

第二は、ヒナモロコが生息している O 水路の改修問題です。これについては、9 月中に結論を出すとの方針でしたので、「ヒナモロコ里親会」の内部での意見統一を再度計ります。

第三は、(社)農村環境整備センターの支援を得て、「ヒナモロコ里親会」が直接的に管理するヒナモロコの放流池の整備と、保全です。具体的には、「二田の堤」のことになります。周辺の小学校と幼稚園を巻き込んでの一大イベントを計画していましたので、具体化を急ぎます。

第四は、(社)農村環境整備センターの支援を得て、「ヒナモロコ」の「専門小冊子」5 から 6 ページの編纂と発行です。橋本先生の収集された膨大な資料を集大成する冊子となります。

これらのことは、お亡くなりになる前日(24 日)に、弊宅をご 4.00 ごろ訪問していただき、打ち合わせをしたばかりでした。まるで遺言のように感じます。

ヒナモロコ通信 第 65 号

平成 19 年 9 月 25 日

平成 19(2007)年度の活動

9 月の予定 第 51 回(通算開催)臨時会合

9 月 30 日(日曜)

午前 10:00 ~ 12:00

於；田主丸中学校

内容 下記課題(第 1 ~ 4)の再確認

第一回目の放流を、一部行います。先の橋本先生からの分で、たくさん引き受けて、負担になっている会員は、遠慮せずに持ってきてください。当方で引き受けるか、放流します。

故橋本先生は、「ヒナモロコ里親会」の実働部隊の中心であり、思想上の中心でした。その中心を失ったことは、将来の「ヒナモロコ里親会」の再編・再生は必須と考えています。

しかし当面、各界からのご支援がありますので、橋本先生のご意志を本年度は、出来るだけ実現できるように努力しなければならないと思います。

その第一は、B 水路へのヒナモロコの放流です。その為に先生は、3000 尾のヒナモロコを増殖して、来年 3 月の放流に向けて、計画をされていました。

第二は、ヒナモロコが生息している O 水路の改修問題です。これについては、9 月中に結論を出すとの方針でしたが、17 日の協議会で決定しませんでしたので、「ヒナモロコ里親会」の内部での意見統一を再度計ります。

故橋本先生の真意はどうだったのか、について意見を出します。

第三は、(社)農村環境整備センターの支援を得て、「ヒナモロコ里親会」が直接的に管理するヒナモロコの放流池の整備と、保全です。具体的には、「二田の堤」のことになります。周辺の小学校と幼稚園を巻き込んでの一大イベントを計画していましたので、具体化を急ぎます。

第四は、(社)農村環境整備センターの支援を得て、「ヒナモロコ」の「専門小冊子」5 から 6 ページの編纂と発行です。橋本先生の収集された膨大な資料を編集して、地域住民への啓蒙等の活動に使用します。

ヒナモロコ通信 第 66 号

平成 19 年 10 月 15 日

平成 19(2007)年度の活動

10 月の予定 第 52 回 定例会合

10 月 21 日(日曜) 午前 10:00 ~ 12:00

於 ; 田主丸中学校

第三回「協議会」についての意見交換

第二回目の放流会

二田の堤の水抜きをしたいと思います。

11 月の予定でしたが、早めにしないと後の予定が立ちませんので、宜しくお願いします。

持参するもの ; 網、胴長、バケツ、その他魚取りに必要な道具一式

10 月の予定 「竹野地区のヒナモロコの保護に関する協議会」第 3 回目の会合

10 月 24 日(水曜) 午前 9:00 ~ 12:00

於 ; 田主丸総合支社裏手、会議室 2 階

参加者等下記の通りです。

9月17日の第2回「竹野地区のヒナモロコの保護に関する協議会」のスナップ



【出席者】

福岡県農地整備課
福岡県自然環境課
朝倉農林事務所農地計画課
朝倉農林事務所農地整備第二課
日本魚類学会
久留米市農村整備課
久留米市田主丸総合支所
産業振興課
久留米市文化財保護課
久留米市環境保全室
ヒナモロコ里親会
竹野第二土地改良区
地元地権者
その他関係者各位

ヒナモロコ通信 第67号

平成 19年 11月 12日

平成 19(2007)年度の活動

11月の予定 第53回 定例会合

11月25日(日曜) 午前 10:00 ~ 12:00

於；田主丸中学校

第三回「協議会」についての結果報告

二田の堤の整備

最後の堰の取り外しをします。

持参するもの；網、胴長、バケツ、その他魚取りに必要な道具一式

10月24日の第3回「竹野地区のヒナモロコの保護に関する協議会」のスナップ



【出席者】

福岡県農地整備課
福岡県自然環境課
朝倉農林事務所農地計画課
朝倉農林事務所農地整備第二課
日本魚類学会
久留米市農村整備課
久留米市田主丸総合支所
産業振興課
久留米市文化財保護課
久留米市環境保全室
ヒナモロコ里親会
竹野第二土地改良区
地元地権者 その他関係者各位

「ヒナモロコ里親会」は県の提案と政策を支持すると表明しました。「協議会」は今回で終わりですが、良い方向が見えてきたと思います。詳細は、会合で。

10月21日の二田の堤の水抜きのスナップ

会員18名が参加した。



堰板を取り外して、水位の下がるまで待機中。

フナが回遊している。その他

もちろん、ヒナモロコ・タカハヤ・ドンコ・ドジョウ・コイがいた。

作業は、3時間近くかかった。会員全員が昼飯も取らず、熱心に魚取りをした。

ヒナモロコは、出水口とは逆にガマなどの茂る泥質の部分に逃げてなかなか捕まらなかったが、

水草の水たまりを分け入って、ヒナモロコの親魚を多数捕獲した。写真のような水草と、水生植物のお陰で、ヒナモロコの産卵場所と避難場所が確保され、大量の「自然増殖」が可能になったことが確認された。

このような水抜きでは、増殖したヒナモロコを十分に捕獲することは出来なかったが、年明けの整備で、新により環境を作り出したいと思います。

11月17日、18日の「耳納の市」のスナッフ

毎年耳納の市には、ボランティア団体として、ヒナモロコの保護活動を知ってもらう広報活動を行ってきました。今回は、耳納塾「ヒナモロコ里親会」として、出店しました。水槽を2つ用意して、「ヒナモロコ」を展示しました。(一つは久留米市浄水場からです)



ヒナモロコという名前はずいぶん知られてきたと思います。
用意したパンフレットも約500冊(昨年作ったもの)を配布しました。(本年も増刷します)
継続は力なり、町の支援もありますので、今後も展示を続けていきたいと思っています。

11月25日の二田の堤の水止め・堰造りのスナッフ
会員16名が参加しました。





南側の二田の堤の入水口に土嚢を積み、その直前から東へ流れる水路を、スコップなどでさらって、水を迂回させることに成功した。

しかし、長年放置されてきた二田の堤は土手に積まれた石垣の間に隙間ができていて、完全に流れ込む水を遮断することができていないので、時期を見て、塩ビのパイプを埋め込んで、完全に遮断することにしています。

こうして、来年の2月、3月の土砂の撤去のために泥を乾燥させます。

泥をどのような形で残し、撤去して、どのような形にするのかという最終的な形は、未定ですが、[福岡大学の工学博士山崎惟義教授\(当会員\)](#)から色々なアドバイスを頂きました。

その中の一つに、**二田の堤を埋めている泥が竹野のヒナモロコが生息している水路の泥と一緒にではないか**・・・、というものでした。

確かに、二田の堤の繁殖率は、二田の堤に泥が堆積することと正比例しています。

二田の堤の改造計画に、方向が見えてきたように感じました。

《ヒナモロコのこと・・・》

ヒナモロコの成魚 雌



ヒナモロコの成魚 雌



(婚姻色の出た個体)

ヒナモロコの成魚 雄



(婚姻色の出た個体) 撮影；橋本 哲男

ヒナモロコの卵(8 ~ 16 細胞)



ヒナモロコの稚魚(孵化直後)



《ヒナモロコのプロフィール》

| | |
|------|--------------------------------------|
| 学名 | <i>Aphyocypris chinensis</i> Günther |
| 科・属 | コイ科ハエジャコ亜科ヒナモロコ属 |
| 地方名 | タバヤ、トンコスバヤ、メダカ、など |
| 全長 | 6 ~ 7 cm程度 |
| 染色体数 | 2n = 48 |
| 分布 | 北部九州、国外では朝鮮半島、中国大陸 |
| 近似種 | カワバタモロコ。オイカワ、カワムツの稚魚。モツゴなど |
| 生息場所 | 流れの緩やかな小河川の淀みや細流、水路、浅い池など |

《ヒナモロコの飼育、増殖について》

親魚(成魚)の飼育

1、飼育用水槽

親魚は60cm以上の水槽で飼育した方がよい。(20~30匹程度がよい。)

水槽が小さいと魚の数にもよるが、酸素欠乏を起こしやすい。また、運動不足から体型が悪くなったり、後天的な奇形を起こしやすい。

フィルター(濾過装置)

フィルターは必ず使用する。上部、底面、内部、外部フィルターのいずれでも可。エアレーションも必ず使用。

底面の砂

2~3cm程度敷く。砂を敷くとバクテリアなどが発生し、水質が安定する。砂を敷かない場合は水質により注意する。

2、水槽設置場所

温度変化が少ない場所。室内、屋外いずれでも可。直射日光が当たらない間接光程度の窓際やベランダなどの明るいところ。あまり暗いと水草などの生育が悪くなる。暗い場合は水槽用蛍光灯を使用する。直射日光が当たると産卵しにくくなる傾向が見られる。

3、水温

ヒナモロコの親は季節的な温度の変化には比較的強い魚で、0度から35度程度まで耐えられる。しかし、適温は20~25度くらいと考えた方がよい。産卵も

そのくらいの水温の時、一番活発である。

冬場、ヒーターは使用してもよいし、使用しなくてもよい。使用した場合、夏場と同じように餌を食べ、成育する。特に、稚魚はできるだけ使用した方がよい。使用しないと死んでしまう場合が多い。

4、餌

雑食性で人工配合飼料、ミジンコ、冷凍アカムシ、乾燥エビなど何でもよく食べる。1日1~2回程度。5分程度で食べてしまう量。やりすぎは水質の悪化につながる。

5、水換え

魚の数と餌の食べ残しによって違うが、1週間に1回程度はした方がよい。

水槽半分ずつ、水道水の汲み置きしたもの、井戸水などを使用。水道水を直接使う場合はカルキ抜き(テトラコントラコロラインなど)を使う。水換えによる水温の変化に注意する。(5度以内程度に抑える。)

6、水草

オオカナダモなどの水草を入れてもよい。川から取ってきた水草はヒルやヒドランなどが付着している場合が多いのでよく洗って使用する。産卵期に水草を入れておくとそのまま産卵する場合がある。

水草は光が足りないと次第に枯れていくので、水槽を明るい場所に設置するか、

水槽用蛍光灯を使用する。

7、病気

ヒナモロコは比較的病気になりにくいですが、急激な水温や水質、環境の変化が起こった場合、病気になる場合がある。

かかりやすい病気

白点病、水カビ病、尾ぐされ病、寄生虫、酸素欠乏など

治療

病気の種類によって違うが、いずれの場合も水温、水質の安定をはかることが大事である。そして、治療薬などを使用する。

治療薬（商品名）

水カビ病・・・マラカイトグリーン、スーパーカットなど

尾ぐされ病・・・グリーンFゴールド顆粒など

寄生虫(白点病)・・・ニューグリーンFなど

寄生虫(イカリムシ症)・・・リフィッシュなど

参考資料（図書名）

アクアブックス 知っておきたい魚の病気と治療（日本動物薬品株式会社）

*魚類の病気と治療について、次回に特集を考えています。（編集部）

8、奇形

ヒナモロコは骨格、鱗、頭部、吻部の変形、鰓蓋の欠損、眼球の突出など奇形が出やすい。後天的にも骨格の変形、成長異常などが頻繁に見られる。

増 殖

1、産卵時期

飼育下では3月～11月ぐらいまで。稀に水温が高い室内などでは12月にも産卵することがある。逆に、8月頃の30度を超えるような水温の高い時期には産卵しない。

最盛期は5月～7月頃

自然下でも3月、4月頃の春期、9月、10月頃の秋期にも産卵している。

2、産卵条件水温

15度～30度ぐらいまで（30度を超えると産卵しない）

20度～25度ぐらいが最適温度

3、産卵時間

夜明けから午前中にかけて、稀に夕方。（飼育下）

4、婚姻色

産卵期になると雄、雌とも幅2mmほどの縦縞がはっきりと出てくる。これを婚姻色という。特に雄は顕著になる。雌は腹部が膨れてくる。

5、増殖方法

セット

通常の飼育用水槽でも自然産卵するが、親魚の水槽から産卵用水槽に婚姻色の出た個体を移し産卵させる方が卵の回収がしやすい。雄、雌の比率は2：1，3：1程

度。40 cm程度の水槽で雄4匹に雌2匹、雄6匹に雌2匹程度。

産卵用水槽には水草を入れ、エアレーションをする。濾過器は使用しない。濾過器を使用すると、産卵した卵が吸い込まれる。砂も敷かない。砂を敷くと卵が発見しにくい。

産卵用の水草はオオカナダモ、ホテイアオイ等を使用し、多めに入れる。採集直後の水草はヒドラなどの発生が見られるので注意を要する。

産卵

天気の変化や水換えなどが刺激となり、産卵行動を始めることが多い。

婚姻色の出た数匹の雄が雌を盛んに追尾し始める。やがて、雄が雌の腹部をつつき始めると雌は水草の上で卵をばらまくように産卵する。受精もその時に同時に行われる。

卵の回収

産卵したばかりの卵は透明で約1 mm前後と小さく発見しにくい。確認するためには、水草を手で取り上げよく見ること。または、水草を目の細かい網ですくい、

網の底に卵がついているかよく見ること。水草にも付着しているが、相当数底面にも落下しているため、底面が黒い水槽の方が発見しやすい。モノアラガイの卵や水の細かい泡等と間違えやすい。産卵が確認できたら、速やかに親魚を産卵用水槽から出す。もしくは、卵を別の容器に移す。そうしないと、親魚に卵を食べられてしまう。

産卵数

条件によって異なるが、だいたい200から400卵。水温が低かったり、条件が整っていない場合は産卵数が非常に少ない場合もある。

6、稚魚の飼育

稚魚用水槽

産卵した卵（卵の付着した水草）は別の水槽、容器に移すか、親魚を移した産卵用水槽をそのまま稚魚の飼育用水槽にする。容器は大きいバケツや衣装ケースなどを使用してもよい。

エアレーションのみ、濾過装置は使用しない。

孵化率

条件によって異なる。産卵した卵が殆ど孵化することもあるが、全く孵化しない場合もある。

孵化時間

- 15度・・・4～5日
- 20度・・・2～3日
- 22度・・・約48時間
- 27度・・・約24時間
- 29度・・・約18時間

仔魚

孵化したばかりの仔魚は約3 mmで、鰓、眼などの諸器官が発達していない。水面や水草にぶらさがっている。水温によって違うが、2～3日すると自由遊泳を開始する。

仔魚の餌

泳ぎ始めた仔魚には細かい餌を与える。初期：ワムシ、ゾウリムシ、仔魚用配合飼料（クロマベビーフード、ひかりパピィ、テトラミンベビーフードなど）固ゆで鶏卵など。しだいに：ミジンコ、アカムシ、ブラインシュリンプ、配合飼料などを1日1～2回程度与える。

未成魚

魚の数や成長の具合、水質に応じて水換えをしたり、飼育水槽を替える。水質の悪化は酸欠の原因となる。また、魚の数が多いと成長が遅い個体が出てくる。成長の差が非常に目立つ。

秋に産卵したものはヒーターを入れないと冬を越せない場合が多い。
約半年から1年で成魚になる。

以上

《ヒナモロコ里親会の歩み》

注記；本資料は、(財)九州環境管理協会・野中繁孝氏からの資料(2005.8.28)を基にして加筆し、全体を耳納塾事務局にて編集したものです。

敬称略

- 氷河期 「ヒナモロコ」大陸から九州へ？
1937年 「ヒナモロコ」日本で初めて報告(森)「朝鮮博物学雑誌」
福岡市近くから採集(岡部先生)。
1948年(昭和23年) 「ヒナモロコ」の生息場所の報告(今井)
多々良川、那珂川、筑後川、宝満川の各水系、ヒナモロコ生息の確認。
1980年前後、福岡市の多々良川では絶滅したらしい(木村先生談)。
1982年 浮羽郡田主丸町片ノ瀬(現在は久留米市)の水路で5尾ほど採集される
(東海大・秋山氏)。

- 平成3年(1991) 環境庁が絶滅危惧種に指定。
1月 北野町(現在久留米市)で確認(渡辺)。
北野町の西鉄大堰駅南約1kmの用水路で3cmのヒナモロコ1尾採集される
(財)淡水魚保護協会)。
10月 田主丸町巨瀬川北側の古川水系で確認(橋本)
この記録以降生息が確認できなくなった。

- 平成4年(1992)
耳納塾をはじめとするボランティアの活動として、「ヒナモロコ」探索の開始。

- 平成5年(1993)
5.22 木村清朗・九州大学教授が、田主丸町中央公民館で
「河川環境と川魚」と題して講演。ヒナモロコは絶滅危惧種になっているが、
町内を探せば見つかる可能性があると話す。

平成 6 年(1994)

- 11.19 シンポジウム「ヒナモロコにつぶやき」開催
主催；耳納塾(西村、高山) (田主丸中央公民館)
講師は木村清朗先生(九大農学部教授・当時)。「筑後川の淡水魚類」と題して講演。
(財)九環協が繁殖・飼育中のヒナモロコ 10 数尾を福岡市から借用展示
(再発見へ!)。
講演終了後、展示魚を見た竹野小学校の児童・先生から教室で飼育している
ことをしらせ、これが発見につながる。
- 11.24 田主丸町巨瀬川南側の水路で確認。
橋本先生が竹野小学校に出向き、飼育中の魚がヒナモロコであることを確認。
発見された田主丸町善院の水路で 26 尾を捕獲(内山)し、橋本先生に提供。
- 11.26 木村先生、耳納塾、(財)九環協が竹野小学校を訪れ、
飼育中の約 30 尾がヒナモロコであることを再確認。
- 11.29 木村先生、耳納塾、(財)九環協が発見された水路の現状を見て、
絶滅の危険性が大きいと判断し、当時の水路の状況は、水がほとんど流れて
おらず、所々に水溜まりが残っている程度で、柔らかい底土には水鳥の足跡が
いっぱい付いていた その場で可能な限り捕獲(50 数尾)。

平成 7 年(1995)

- 2.10 生息地水路の多自然型工法での改修を決定。
(ミサ&ヒナモロコ倶楽部、井上ほか善院地権者)
- 5.24 ヒナモロコプロジェクト第一回会合 愛称を「ヒナモロコ救助隊」と決定。
(井、岩佐、竹上、日野、馬田、石橋、川崎、丸林、有村ほか)
- 6.22 町指定天然記念物として告示(現在は久留米市の天然記念物)
(田主丸町 右田町長、田主丸町教育委員会 山下教育長)
- 7.20 竹野小学校のヒナモロコ産卵孵化を確認(繁殖開始)。
(竹野小学校・古賀校長、袋野教諭、小学校児童、PTA の皆さん)
竹野小学校で 1 回産卵させ、30 ~ 40 尾の稚魚を得る。
耳納塾会員 2 人が、延べ 10 回産卵させ、約 400 個体の稚魚を得る。
(財)九環協が 20 個体を用いて、個体を識別しながら 16 回のペアリングで
約 2,000 個体の稚魚を得る(協会の公益事業として取り組む)。
- 12.09 耳納塾主催シンポジウム「ヒナモロコにつぶやき」第二回

平成 8 年(1996)

- 4.19 町と(財)九州環境管理協会との間で、増殖事業委託契約締結(一回目)2 年間。
この時耳納塾が飼育管理中の 15 尾を協会に持ち込む(この年はオス不足で
あったが、13 回のペアリングで約 2,000 尾の稚魚を得る (財)九環協・野中氏)
- 4.26 乙堤へ稚魚放流(約 1000 尾)
- 5.07 田主丸町立小・中学校校長会にヒナモロコ飼育を依頼
- 6.20 ヒナモロコ放流祭

平成 9 年(1997)

- 4.1 町と(財)九州環境管理協会との間で、増殖事業委託契約締結(二回目)。

- 12.14 耳納塾主催シンポジウム「ヒナモロコのつばやき」
里親方式によるヒナモロコの保護活動を立案(高山)

平成 10 年(1998)

- 3.22 第一回ヒナモロコ里親任命式(耳納塾主催・林、高山)
(田主丸町教育委員会 山下教育長)
ボランティアによる本格的増殖活動の開始。第一回里親会員・約 30 名。
- 9.13 ヒナモロコ放流会(3 保存地区に放流)
- 10.18 第一回ヒナモロコ保全対策委員会の発足(2000 年までの 3 年間)
(社)日本水産資源保護協会の委託事業。(木村委員長、金子)
田主丸町～北野町～大刀洗町～小郡市～三橋町～神埼町～鳥栖市～甘木市～
久留米市～筑後市～朝倉町～吉井町など、ヒナモロコが生息する可能性のある
水域を採集調査。
【最初に発見された水路流入点の巨勢川と放流した溜池を除き採集できず】
この調査の他、委員会ではヒナモロコの繁殖・放流、卵発生の記載も行う。

- 11.15 乙の堤にてヒナモロコ放流

平成 11 年(1999)

- 3.14 第二回ヒナモロコ里親任命式
- 6.13 フォーハートクラブ社会貢献団体選考委員会から表彰。
- 9.19 ヒナモロコ放流会。 第二回ヒナモロコ保全対策委員会開催。

平成 12 年(2000)

- 3.20 第三回ヒナモロコ里親任命式
- 7.23 第三回ヒナモロコ保全対策委員会(終了)
- 9.23 ヒナモロコの放流(1 回目)を伴うリス・グラントワーク協会と
(財)日本グラントワーク協会(福岡市)の参加を得て、日英ヒナモロコ交流会として
開催。イギリス人親子 24 名参加。
- 10.22 ヒナモロコ放流会(2 回目)

平成 13 年(2001)

- 1.21 「ヒナモロコ里親」の会を耳納塾の後援を得て、分離独立することを決定。
- 2.18 「ヒナモロコ里親会」の設立(代表;大石委員長)。
設立参加会員・約 40 名。(里親会通信の発行。規約の制定等・・・)
- 3.上旬 福岡県レッドデータブック 2001 にて絶滅危惧種指定。
- 3.20 第四回ヒナモロコ里親任命式 於;田主丸中学校 主催;ヒナモロコ里親会
(田主丸町町長 馬田 博、教育委員会委員長 古賀忠義)
- 9.16 ヒナモロコ放流場所の確保のために、甲の池を整備し(1 回目)、
ヒナモロコを放流。
- 9.23 ヒナモロコ放流会(1 回目)
- 10.21 ヒナモロコ放流会(2 回目)。 甲の池を整備(2 回目)。

平成 14 年(2002)

- 3.10 平成 13(2001)年度活動報告書の編集・製作・発行。

第五回ヒナモロコ里親任命式

- 8.18 水辺の教室 午前 10:00~
8.27 (社)日本動物園水族館協会より平成 14 年度野生動物保護募金の助成団体に
決定。(計 3 回、2004 年度まで)
海の中道海洋生態科学館からの推薦を受けて、受賞することになった。
9.15 ヒナモロコ放流会(1 回目)
10.20 ヒナモロコ放流会(2 回目)
11.10 中学生の水辺の教室(浮羽ロータークラブの後援)

平成 15 年(2003)

- 3.23 平成 14(2002)年度活動報告書の編集・製作・発行。
第六回ヒナモロコ里親任命式
(6) ヒナモロコの放流池「おたから堀」
(第 1 回田園自然再生活動コンクール受賞・耳納塾(村上))
8.26 (社)日本動物園水族館協会より(第 2 回目)
平成 15 年度野生動物保護募金の助成団体に決定。
9.21 ヒナモロコ放流会(1 回目)。 水辺の教室 午前 10:00~ 開催。
10.19 ヒナモロコ放流会(2 回目)。

平成 16 年(2004)

- 3.21 平成 15(2003)年度活動報告書の編集・製作・発行。
第七回ヒナモロコ里親任命式
8.26 (社)日本動物園水族館協会より(第 3 回目)
平成 16 年度野生動物保護募金の助成団体に決定。
水辺の教室 午前 10:00~ 開催。
9.19 ヒナモロコ放流会(1 回目)
10.17 ヒナモロコ放流会(2 回目)

平成 17 年(2005)

- 2.27 平成 16(2004)年度活動報告書の編集・製作・発行。
第八回ヒナモロコ里親任命式
3.27 「ヒナモロコ里親会」定例集会
会員が飼育しているヒナモロコの親魚を持ち寄り、相互交換して、
春の産卵のための準備をする。
7.17 水辺の教室 午前 10:00~ (耳納塾主催) に参加。
(小、中学生も参加して、大人と一緒に川に入り、網で魚取りをする行事)
8.28 講演会;そよかぜホール 高山賢治氏、野中繁孝氏
9.25 第一回放流会
10.23 第二回放流会

平成 18 年(2006)

- 2.26 第九回「ヒナモロコ里親会」定例集会
ヒナモロコの相互交換(昨年度各自飼育したヒナモロコの親魚を持ち寄って、
会員同士で半分ずつ相互交換する) 新加入里親任命式
3.26 「ヒナモロコ里親会」定例集会ヒナモロコの相互交換(2 月欠席の会員)

- 二田の堤の生態調査 ヒナモロコの生態等
- 4.23 「ヒナモロコ里親会」定例集会自然水路の生態調査。
飼育報告会 飼育記録の発表
- 5.28 「ヒナモロコ里親会」定例集会
二田の堤の生態調査 川に入って魚取り。飼育報告会
- 6.25 「ヒナモロコ里親会」定例集会 海の中道海洋生態科学館の見学
- 7.3 (社)農村環境整備センターの支援を受けた活動の打ち合わせ
- 7.14 (社)農村環境整備センターからの支援決定。**
- 7.30 水辺の教室「巨瀬川にすむ淡水魚の捕獲調査」
「ヒナモロコ里親会」定例集会
- 8.10 外来生物調査、ヒナモロコ分布調査(鎮西湖、N水路ほか)
- 8.27 「ヒナモロコの捕獲調査」 於；田主丸町善院水路、二田の堤
第39回「ヒナモロコ里親会」定例集会
- 8.30 国土交通省筑後川河川事務所との合同調査。巨瀬川馬場橋。
- 9.2 ヒナモロコ放流池の整備・草刈り
6名(橋本・大石・鐘ヶ江・山川・高山・村上)
- 9.4 「水生生物観察会」竹野小学校5年生25名の参加。朝倉農林事務所後援。
- 9.24 第40回「ヒナモロコ里親会」定例集会
N水路の調査。
従来全くいなかった水路で、多数のヒナモロコを発見、捕獲した。
- 10.19 西郷地区役員とのワークショップ、朝倉農林事務所。於；田主丸支所
- 10.26 「竹野地区の自然についての学習」 於；竹野小学校。
- 10.29 「ヒナモロコの捕獲調査」 於；田主丸町善院水路、西側。
第41回「ヒナモロコ里親会」定例集会
- 11.25 N水路の調査。
- 11.26 冷水川東側水路の調査。
- 11.30 ヒナモロコ講演会に向けての話し合い。於；田主丸支所 PM4.00 ~
- 12.6 西郷地区地元説明会。於；西郷公民館 PM7.30 ~
- 12.10 「ヒナモロコ里親会」定例集会
講演会。於；旧中央公民館 PM1.00 ~
講師 細谷 和海 (近畿大学農学部教授)
大原 健一(岐阜県河川環境研究所)
高久 宏佑(近畿大学大学院農学研究科)

平成 19 年(2007)

- 1 28 臨時会合 (社)農村環境整備センター関連の活動 田主丸中学校
略して「農環整 C 活動」
- 2 17 (~ 18) 橋本先生 「ふくおか水もり自慢！」
実行委員会特別賞 写真



- 2 25 第 43 回定例会合 里親集会
日本魚類学会を招いての意見交換会合 9人 田主丸総合支所
- 3 21 「今後のヒナモロコ保護のあり方について」発表 橋本 哲男
- 3 25 第十回「ヒナモロコ里親会」定例集會里親集會 ヒナモロコの相互交換
17人 田主丸中学校
(昨年度各自飼育したヒナモロコの親魚を持ち寄って、會員同士で相互交換)
新加入里親紹介 農環整 C 活動 二田の堤の生態調査、ヒナモロコの生態等
- 4 22 里親集會 飼育報告會 飼育記録の発表 8人 田主丸中学校
農環整 C 活動 自然水路の生態
- 4 24 (社)農村環境整備センターからの支援決定。
- 5 27 里親集會 農環整 C 活動 二田の堤の生態調査 11人 田主丸中学校
川に入って魚取り。 飼育報告會
- 6 24 里親集會 飼育報告會 9人 田主丸中学校
農環整 C 活動
- 7 8 第一回「ヒナモロコの保護に関する協議會」 支所
- 7 11 学習會 竹野小学生と朝倉農林事務所農地計画課 4人 D水路にて
- 7 16 草刈り 二田の堤 参加者 4人
- 7 21 大石実行委員長 「川の日」ワ-クショップへ参加(~ 18日) 東京へ出張
- 7 29 里親集會 水辺の教室 午前 10:00~ (小、中学生も参加して、
大人と一緒に川に入り、網で魚取り。) 約 30人 巨瀬川
農環整 C 活動 二田の堤の調査
- 8 25 **** 橋本哲男先生逝去 *****
- 8 26 里親集會 橋本先生宅を訪問して、ヒナモロコを含む全ての
淡水魚約 5000尾を會員が分担して引き取る。 15人。
その内ヒナモロコは約 3000尾
- 8 27 橋本哲男先生葬儀 (久留米)草苑
- 8 30 打ち合わせ 10時~、今後の方針など・・・ 郷原・田中係長
- 9 2 臨時會合 橋本邸を訪問・・・部材の整理と処分 16人
- 9 13 打ち合わせ 竹野地区集會所 午後 6.00~ 郷原・田中係長
- 9 14 モデル地区の成果発表會 村上 政利・東京へ出張 (社)農村環境整備センター
- 9 17 第二回「ヒナモロコの保護に関する協議會」 會員の出席は 11人 支所
- 9 30 里親集會 (第一回放流會)順延 中止 田主丸中学校
- 10 21 里親集會 二田の堤の水抜き 18人 二田の堤
活動報告書の作成準備反省會 (第二回放流會)順延 中止
- 10 24 第三回「ヒナモロコの保護に関する協議會」 支所
- 11 4 二田の堤の水抜き、二回目 2人 二田の堤
- 11 16 耳納の市 久留米市放光寺浄水場と共同でヒナモロコを展示 山川氏ほか 2人
- 11 25 里親集會 二田の堤の土嚢を使ったせき止め 16人 二田の堤
- 12 7 打ち合わせ 内水面研究所・西川次長、佐野研究員 2人 支所
- 平成 20(2008)年
- 1 19 討論會 ふれあいの家北筑後 20日まで
- 1 27 里親會 新体制と、新規約の議論 田主丸中学校
- 2 15 説明會 B水路にて、約 40名から 50名 朝倉農林事務所農地計画課
- 2 21 泥上げ 二田の堤
- 2 24 里親會 ヒナモロコの親魚類の相互交換、二田の堤の視察 田主丸中学校

- 3 8 打ち合わせ 国土交通省筑後川河川事務所と。牟田企画係長、甲斐田企画員。
巨瀬川の改修に伴うワンドについて 田主丸総合支所
- 3 22 はる祭り ヒナモロコの展示と啓発活動 23日まで、かっぱ茶屋
- 3 30 里親会 ヒナモロコの親魚類の相互交換、二田の堤への 放流

(現在に至る)

《 規 約 》

- 1.名称 「ヒナモロコ里親会」略称を「里親会」とする。
英文 Hinamoroko Foster-parents Club (略称 HFC)
- 2.活動の内容と目的 活動年度を1月から12月までとする。
ヒナモロコの飼育・繁殖・放流等の保護活動を行う。
ヒナモロコの飼育・繁殖・放流等を記録し書類等に編纂し、^{へんさん}単年度ごとに活動報告書を作成する。
前項の活動を補完するモニタリング、宣伝・啓発活動、河川の魚類調査等を行う。
- 3.入会 入会時に各自の希望により「実行委員」又は「通信会員」になることが出来る。
ヒナモロコの飼育と増殖・放流等の活動に参加して、
ボランティア精神を発揮できる個人・団体を実行委員とする。
通信のみを受け取って会を支援する個人・団体を通信会員とする。
- 4.経費 会の運営に必要な経費は、年会費、交付金、寄付金などを当てる
単年度毎の会費は 個人又は団体 ￥2,000 - とする。
会計年度を 4月1日から翌年3月31日までとする。
- 5.人事 会の運営のために以下の役職を置き、定例会において承認する。
又新人事等は会長が組織する人事実行委員会の推薦案に基づき決定する。
名称；会長、副会長、書記、会計、会計監事、事務局長、顧問、実行委員長
全ての役職は実行委員が就任する。任期は1年とし、自動的に継続する。
解任は、本人の申し出とし、定例会にて承認する。
その他必要な役職、欠員はその都度、人事実行委員会にて決定し、定例会にて承認する。
会長を除く全ての役職は、複数人の就任・再任を認める。
- 6.職務の内容
会長・・・実行委員長を兼務し、実行委員会を組織して定例会を主催する。
原則として月一回の定例会を開催する。通信会員も、定例会に参加できる。
又、活動の内容に応じて、別の独立した実行委員長を任命する。
その他、適時必要な役員、議長、司会等を実行委員の中から任命する。

- 活動の目的、内容に応じて、それに対応する実行委員会をその都度組織する。
- 副会長・・・会長を補佐し、事故ある時はその職務を代行する。
- 書記・・・定例会の記録と、里親会通信の発行、年次報告書の編集と作成を行う。
- 会計・・・経理に関する一切を行う。
- 会計監査・・・会の業務・財産を監査する。
- 事務局・・・対外・対内的な、その他一切の業務事項の処理と連絡調整を執り行う。
又必要に応じて会長と計り、定例会・総会の前に事務局会を開いて
必要事項を協議する。会員証を発行する。
- 実行委員長・・・活動を円滑に遂行、運営するために実行委員会を組織して、会長あるいは定例会にて報告、承認のうえ活動する。
又、会長、事務局長と協議して議案を作成し、実行委員会、定例会に諮ることが出来る。

7.規約の改正 この規約の変更及び他に必要な事項は、会長が兼務する実行委員会で協議して建議し、定例会合にて決定する。

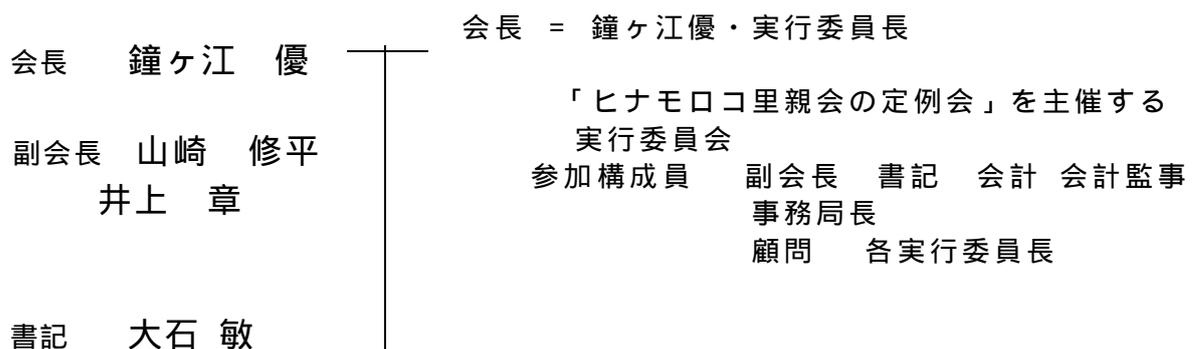
8.付則 平成 13(2001)年 2 月 18 日、規約の発効。
平成 13(2001)年 11 月、英文呼称を規約第一条に追記。
平成 20(2008)年 1 月 27 日、規約の改正。平成 19 年度報告書に記載する。
平成 19 年度会計分は 20 年 3 月 31 日までとする。

2008(H 20)年度

「ヒナモロコ里親会」組織表

組織図

平成 20 年度新体制



会計 中野 君子
会計監事 三宅 基裕
 山川 英毅
事務局長 村上 政利
顧問 (未定)
各々 実行委員長

任命

大石 敏・実行委員長
「竹野地区のヒナモロコの保護に関する
協議会」
に参加する。

参加構成員 実行委員 通信会員

任命

村上 政利・実行委員長
「二田の堤の整備と保全等に関する委員会」
二田の堤の整備とメンテナンス
に関する責任者。

参加構成員 実行委員 通信会員

発行； 「ヒナモロコ里親会」
会長 鐘ヶ江 優
副会長 山崎 修平
 井上 章
書記 大石 敏
会計 中野 君子
会計監事 三宅 基裕
 山川 英毅
事務局長 村上 政利

(平成 20 年 4 月スタートの新体制です)

〒 839-1233 福岡県久留米市田主丸町田主丸 9 2 3 - 4

電話 09437-4-4052

Fax 09437-4-4051

mail; hinamoroko@titanist.com

編集； 「ヒナモロコ里親会」会事務局
発行日； 平成 20(2008)年 4 月 吉日